



「Sulang」はパラオ語で「ありがとう」という意味です。(私が置かせていただいている環境に感謝を込めて)

福井で雪がたくさん降ったという報せが届いています。寒い中での体調管理、凍った雪道、除雪等、大変ですが気を付けて過ごしてください。写真はパラオのカーブ島という島を訪れた際にドローンで撮影したものです。パラオは相変わらず綺麗な海と共に温かい(暑い)天候が続いています。時々スコールも振りつつ。今回は、遅ればせながら、私の青年海外協力隊としての任務についてお知らせしたいと思います。



○JICA 海外協力隊への要請

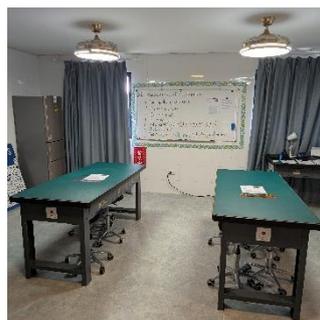
JICA 海外協力隊として開発途上国に派遣されるのは、開発途上国からの要請があるからです。簡単に言うと、「このようなことに困っているから、こんな人に来てもらって助けてもらいたい」といったことを開発途上国が日本に対して依頼するのです。そして、日本政府が政府開発援助 (ODA) として日本から人材を派遣します。その一人が私です。人材派遣の目的は開発途上国への技術移転などを通じた自立的な成長の後押しと異文化相互理解です。教育関係だけではなく、医療、農業、道路や電気といったインフラ整備等、様々な職種の派遣があります。

○ベラウ・モデクゲイ・スクールからの要請

私の赴任地であるベラウ・モデクゲイ・スクールからの要請は簡潔に以下のとおりです。

1. 理科授業の実施と同僚教員の授業における実験の実施をサポート
2. 授業に実験や研究を効果的に導入、生徒の科学への興味の増進、理解力の促進
3. 科学フェア等のイベントの開催を企画・運営、実施を通じた生徒の能力向上支援
4. 理科実験室の適切かつ永続的な運用管理のためのシステム構築と定着
5. 生徒への日本文化や日本語の伝達(できる範囲で)

この要請の背景には、パラオの理数科の学力が特に低いことが理由にあります。理科の授業で実験を積極的に取り入れて生徒の科学への興味の増進と学力の強化を図りたいという意向です。さらに、ベラウ・モデクゲイ・スクールには、2022年に日本政府の草の根無償資金協力事業で寄付された理科実験室と実験器具があります。



これらを持続的に活用していく環境づくりが隊員の私に望まれていることで、こちらにある材料でできる実験を開発しつつ、こちらの先生が扱えるような仕組みを整えていきます。